



<https://www.nins.jp>

2022年 **9**月 **25**日 **日**
12:30 ▶ 16:35

ハイブリッド開催

LIVE同時配信会場

一橋大学 一橋講堂

〒101-8439

東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内

LIVE配信

YouTube

ニコニコ生放送
niconico LIVE

シンポジウムWEBサイトよりご視聴いただけます

<https://www.nins.jp/site/connection/sympo34.html>



お問合せ

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
第34回 自然科学研究機構シンポジウム 事務局
TEL:03-5425-1898 FAX:03-5425-2049
e-mail: sympo34@nins.jp

主催

大学共同利用機関法人
自然科学研究機構








プログラム

開会

12:30 機構長挨拶 川合 眞紀 (自然科学研究機構 機構長)

講演

- 12:35 ~13:05  「ジェンダーから見直す仕事とくらしの日本史」
 横山 百合子 氏 (人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 名誉教授) ②
- 13:10 ~13:40  「オスの骨格筋はおにぎりが好きで、
 メスの骨格筋は霜降りの肉が好き」
 諸橋 憲一郎 氏 (九州大学大学院 医学研究院 主幹教授) ③
- 13:45 ~14:15  「ヒトの認知・情動と性」
 定藤 規弘 氏 (自然科学研究機構 生理学研究所 教授) ④
- 14:30 ~15:00  「女性研究者のキャリアパスのために」
 大隅 典子 氏 (東北大学 副学長／東北大学大学院 医学系研究科 教授) ⑤
- 15:05 ~15:35  「進路選択の現場における性差の現状」
 新海 徳則 氏 (愛知県立岡崎高等学校 教諭) ⑥

パネルディスカッション

15:45 司会：坂本 貴和子 (自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任准教授)
 ~16:30 パネリスト：川合 眞紀 氏・横山 百合子 氏・諸橋 憲一郎 氏・
 定藤 規弘 氏・大隅 典子 氏・新海 徳則 氏

閉会

16:30 副機構長挨拶 吉田 善章 (自然科学研究機構 核融合科学研究所 所長)

※講演題目は変更になる場合がございます。

ジェンダーから見直す 仕事とくらしの日本史



横山 百合子 | 人間文化研究機構
 国立歴史民俗博物館 名誉教授

「歴」と「史」という二つの漢字は、無数に起こり消えていった過去の事実と、それを文字で記録したものという、異なる意味をもっています。2020年秋の国立歴史民俗博物館の企画展示「性差(ジェンダー)の日本史」は、「歴」として存在しながら「史」たり得なかった女性たちの姿を明らかにすることを目標の一つとして開催しました。

一方、歴史学は、いつ、なぜ、男女をはっきりと区分する社会を生み出してきたのかという、ジェンダーの問いとも格闘してきました。考えてみれば、日本列島社会では、いつの時代も、言葉遣いや衣服、髪型は男女で異なっていたのでしょうか。あるいは、土中から掘り出された道具や装飾品が、「男性のものか、それとも女性のものか」と考えるのは、無意識のうちに、男女で区分される社会が存在したことを前提としているからです。しかし、それは、常に適切な問い方なのでしょうか。

歴史の研究・展示は、このような振り返りを促すこともできる一方、本来は存在しなかったかもしれない男女別の表象を作り出し、区分の意識をさらに強めたり上塗りしたりする怖さもあります。シンポジウムでは、日本列島社会で人びとが営んできた仕事やくらしの実態を、展示の様子を通してご紹介し、ジェンダーの視点から見直すことで、どのような新たな歴史像が見えてくるのかを考えてみたいと思います。

【参考】性差(ジェンダー)の日本史(集英社インターナショナル) 国立歴史民俗博物館(監修)

略歴

- 1979年 東京大学文学部卒業 神奈川県立高等学校教諭を経て
- 2003年 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学 博士(文学・東京大学)
- 2007年 千葉経済大学経済学部教授
- 2010年 帝京大学文学部教授
- 2014年 国立歴史民俗博物館教授(総合研究大学院大学教授併任)
- 2021年 国立歴史民俗博物館退職 同名誉教授

最近ハマっているもの、趣味など

晩柑類のジャムを美味しく作る方法

オスの骨格筋はおにぎりが好きで、 メスの骨格筋は霜降りの肉が好き



諸橋 憲一郎 | 九州大学大学院
医学研究院 主幹教授

わたくし達の骨格筋を男性(オス)と女性(メス)で比べると、男性の方が硬くて太く、収縮する力も強そうで、女性の方が柔らかくて細く、収縮する力も弱そうに見えます。このように骨格筋には明瞭な性差があります。ではわたくし達の身体を作っている他の臓器や器官に性差はあるのでしょうか？

例えば、男性の肝臓と女性の肝臓には骨格筋のような違いは見られませんし、男性の血管と女性の血管にも大きな違いは見えません。では同じかということ、同じではありません。やはり性差があります。では、どこに性差があって、どこを見れば性差が見えるのでしょうか？

実は、わたくし達の身体を作り上げている全ての細胞に性差があります。肝臓の細胞に性差があるから肝臓に性差が生まれ、脳の神経細胞に性差があるから脳にも性差が生まれるのです。では細胞の何を見れば性差が見えてくるのか？例えば、遺伝子の働き方です。どのような遺伝子がどれほどの強さで働いているかを調べると、性差が見えてくるのです。

本講演では、オスの骨格筋細胞とメスの骨格筋細胞で遺伝子の働き方を比べた時に見えてきた性差をご紹介します。この遺伝子の働き方の性差から、オスの骨格筋とメスの骨格筋ではエネルギーを得るために消費する物質に性差があることが分かってきました。

オスの骨格筋はどちらかというと炭水化物(ご飯やパン、麺)を、メスの骨格筋は脂肪(霜降りの肉やトロにたっぷり含まれる脂)を分解するのが得意ようです。このようなメスの特徴は、脂の分解に必要な遺伝子の機能が女性ホルモンの作用によって促進されることがその理由です。これらの実験結果をもとに、男性と女性の骨格筋の差が食の好みに性差を生み出している可能性について議論したいと思います。

略歴

- 1986年 九州大学大学院理学研究科(生物学専攻)博士課程修了
理学博士
- 1986年 九州大学理学部生物学科、助手
- 1996年 岡崎国立共同研究機構、基礎生物学研究所 形質統御実験施設、種分化機構第二研究部門、教授
総合研究大学院大学、生命科学研究科、教授(併任)
- 2007年 九州大学大学院 教授

最近ハマっているもの、趣味など

テニスと釣り

ヒトの認知・情動と性



定藤 規弘 | 自然科学研究機構
生理学研究所 教授

認知機能の性差を脳の構造的な差に関連付ける研究はほとんど進んでいません。その理由には、(1)認知機能の性差は個人間のばらつきに比べて遥かに小さく、性差の存在そのものが論争の的となっていることと、(2)ヒトの男女間の集団レベルの差異が、先天的な性因子(sex)に起因するのか、生涯を通じて神経可塑性を通じて作用する社会・環境的な性学習(gender)によるのかを区別することが困難であること、この2つが挙げられます。

一方で、ある種の精神疾患に有病率性差が存在することから、病態理解と制御を目指した脳の機能構造上の性差を明らかにする試みがなされてきました。その古典例として、Geschwind-Behan-Galaburda仮説があります。これは、大脳半球間の成熟速度の違いは、血中テストステロンレベルによって媒介され、性的成熟が思春期以降の大脳半球を相対的に異なる発達段階に固定するとのモデルであり、言語処理は女性でより両側性である、との仮説を提出しています。しかし、言語処理の脳活動(機能)、言語処理領域の大きさ(形態)、両耳分離聴取(機能)における女性での対称性は、メタ解析によっていずれも棄却されています。

一方、MRIを用いた脳機能構造イメージング手法の爆発的な普及により蓄積されたデータのメタ解析は、(1)男性の脳は生まれつき女性より大きく、成人では約11%に安定し、大きさの違いが神経結合や多変量解析による性別予測に大きな影響を及ぼしていること、(2)大きさを除外した後に存在する構造的・側方的な差異の分散の1%程度が性別により説明されること、(3)課題を用いたfMRIでは、特に言語処理、空間処理、感情処理において偽発見の割合が高いため、再現性のある活性化の男女差を見出すことができないこと、といった3点が、現在では明らかになっています。

本講演では、男性と女性は、認知機能と感情において、従来予想されていたよりも類似しており、文化的背景、教育、男女平等環境、ジェンダー・ステレオタイプ、練習、ホルモンレベルなどが認知や感情に大きな影響を与えることについて、これまでの研究成果を交えて解説します。

略歴

- 1983年 京都大学医学部医学科卒業、医学博士
- 1988年～1990年 米国NIH客員研究員
- 1995年～1998年 福井医科大学高エネルギー医学研究センター講師
- 1998年 福井医科大学高エネルギー医学研究センター 助教授
- 1999年～現在 大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所
(旧：岡崎国立共同研究機構生理学研究所) 教授

最近ハマっているもの、趣味など

ランニング。新型コロナウイルス感染症拡大前に比べて75%ほど走行距離が伸びました。

女性研究者の キャリアパスのために



大隅 典子 | 東北大学 副学長／
東北大学大学院 医学系研究科 教授

21世紀の始まりから、学内外の活動の中で「共同参画」に関わってきました。本講演では20余年の活動を振り返り、その反省とともに、未来の女性研究者のキャリアパスのために何ができるかについてお話したいと思います。

当時、理系分野では「理念としてのジェンダー平等」よりも「実質的な女性研究者支援」を推進し、東北大学では学内保育園の設置や子育て期の女性研究者に支援要員を付けるなどの経済的な支援策を重要視してきました。本学は「超理系大学」であったため、2006年より、女子学生の理系進学を進めるための「サイエンス・エンジェル制度」(今年度から「サイエンス・アンバサダー」に名称変更)も開始しました。その結果、2001年時点で13.6%であった博士課程の女性比率は、20年後、30.9%にまで上昇しましたが、教員(助教・助手含む)の女性比率は、5.7%からようやく18.4%に達したところです。博士号を取得した人材がその後、10年ほどで教員職を得るものと想定すると、2011年の時点で博士課程の女性比率はすでに24.6%となっていたのですから、まだ現実には公正性が高いとはいえません。

今、振り返ってみると、研究機関における「支援要員制度」は、「男性と同等に長時間働く」ことを前提とし、支援要員となる方に女性が多いことは、「支援する性としての女性」という性別役割分担を助長しています。また、人件費としての費用がかかるためにサステナブルな施策ではありません。もっとも根源的な問題は、「無意識のバイアス」を払拭する、公正性を高めるための啓発活動が足りなかったと思います。

これからの社会に求められているのは、性別に囚われず、「誰もがその持てる才能を活かす」ことができる環境整備、制度設計、そして何より意識の醸成だと思います。日本で遅れている男性の家庭参画や社会参画を推進することが、女性のキャリアパスにとっても必要です。育児休暇を取りたい方の気持ちを直属の上司や組織の構成員が暖かく認めることは極めて重要だと考えられます。

【参考】大隅典子、大島まり、山本佳世子：理系女性の人生設計ガイド 自分を生かす仕事と生き方。講談社ブルーバックス、2021年

略歴

- 1985年 東京医科歯科大学歯学部 卒業
- 1989年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了(歯学博士)
- 1989年 東京医科歯科大学 顎口腔総合研究施設 顎顔面発生機構研究部門 助手
- 1991年 東京医科歯科大学大学院 生体機能制御歯科学系 発生機構制御学講座 助手
- 1996年 国立精神神経センター神経研究所室長
- 1998年 東北大学大学院医学系研究科教授(～現在)
- 2006年 東北大学総長特別補佐(男女共同参画担当)(～平成30年3月)
- 2008年 東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー(～平成23年3月)
- 2015年 東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センターセンター長(～令和2年3月)
- 2018年 東北大学副学長(広報・共同参画担当)(～現在)

最近ハマっているもの、趣味など

芍薬、ショートヘア

進路選択の現場に おける性差の現状



新海 徳則 | 愛知県立岡崎高等学校
教諭

本シンポジウムでは、講演者の愛知県立岡崎高等学校(以下、本校)での理科教員としての勤務経験をもとに、高校教育の現場における男女の進路選択の違いをテーマにお話させていただきます。

本校は男女共学であり、生徒は性別を問わず高い目標を持って学業に取り組み、難関大学への進学を目指しています。全国的に見ると進学実績が高い高校には男女別学が少なくありませんが、本校の進学実績は公立高校としては全国トップを争うレベルです。

本校では2年生から文系・理系に分けてクラス編成を行い、理系の場合は理科を「物理・化学」または「生物・化学」を選択することになっています。理系は文系より女子生徒の割合が少ないです。また理系的女子は、男子に比べて物理を選択する割合が少なく、さらに理系で物理を選択する女子の多くは医学部・薬学部の志望者が多いです。それはなぜでしょうか？

私は物理の教員として学習指導・SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業などを担当してきましたが、少なくとも生徒が物理を理解したり応用したりする能力において性差を感じたことはありません。車が好きで模試をサボってF1の観戦に行った者、飛行機好きが高じてパイロットになった者、入学当初から量子力学の話をしたがり教員を困らせた者・・・、様々な女子生徒を見てきました。しかし、彼女たちはほんの少数派に過ぎません。

「物理をやる女子なんて多くなくてもいいじゃないか？」という意見もあるかもしれませんが、しかし、もしここに「ガラスの天井」らしきものが存在するのなら、きちんと議論する必要があると思うのです。シンポジウムでは、本校生徒の男女による進路選択の違いについてデータを提示しながら考察する予定です。皆さんの活発な議論のきっかけの一つになれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

略歴

- 1995年度 愛知県立高等学校の理科教員に採用され主に物理を担当
- その後豊橋東高校、西尾高校を経て、2005年度より岡崎高校へ着任
- 2015年度より同校SSH(Super Science Highschool)主任

最近ハマっているもの、趣味など

音楽鑑賞、石拾い、フライフィッシング、サイクリング、電子工作など